

宇和島市民のちかい

わたくしたちは、宇和島の歴史と伝統を誇りとしこのちかいを定めます。

一、わたくしたちは、人情味ゆたかな気風をたかめ、時間やきまを守りましょう。

一、わたくしたちは、清潔な環境をととのえ、健康で明るいまちをつくりましょう。

一、わたくしたちは常に新しい時代にめざめ、進んで活気あるまちをつくりましょう。

昭和三十八年一月一日制定

目次

沿革

一、人々のくらし……………二五

二、土地の変動……………三〇

第一編 市制施行以前の地方行政と宇和島

第一章 地方自治制実現までの地方行政……………三七

序 説……………三七

第一節 明治維新後の宇和島……………三八

1 大政奉還……………三八

2 版籍奉還……………三九

3 廃藩置県……………四三

4 町や村の行政……………四五

第二節 愛媛県の成立と地方行政……………五三

1 愛媛県の成立……………五三

2 愛媛県の地方行政……………五五

イ 町村議事会の開設……………五六

ロ 区会および県会の開設……………六二

ハ 大区会および小区会……………六三

第三節 地方自治制への前進

1 地方三新法の公布

六七

2 区、町村会法の公布

七一

3 地方行政区の整備

七五

4 市制・町村制の公布

七八

第二章 町村制施行後の宇和島

八三

第一節 宇和島町の発足

八三

第二節 歴代町長と町政

八六

初代町長 山崎 惣六

八六

二代町長 同

九三

三代町長 土居 礼

九四

四代町長 同

九五

五代町長 高槻 常貞

九六

六代町長 同

九八

七代町長 中原 涉

九九

八代町長 同

一〇五

九代町長 同

一〇五

十代町長 武内 鼎吉

一〇九

十一代町長 山村 豊次郎

一一二

第三節 町会と自治行政

一一五

第四節 丸穂村の合併

一一二

1 丸穂村の自然と歴史

一一三

2 丸穂村の村政

一一四

3 丸穂村合併の経緯

一一六

イ 第一回交渉頭未録

一二九

ロ 宇和島町合併交渉委員会の回答

一三一

ハ 両町村委員会の会合

一三一

ニ 丸穂村における合併協議会

一三三

ホ 合併の成立

一三四

第二編 市政施行五十年の推移と市勢の発展

第一章 新市建設の事業とその後の試練

一四一

第一節 八幡村との合併と市制の施行

一四一

1 八幡村の地域と村政

一四一

2 八幡村の村勢

一四三

3 合併問題の推移

一五一

4 合併の成立と条件

一五七

5 市制の施行と課題

一六四

イ 新市建設構想

一六四

- 一、宇和島町ト八幡村トノ合併ヲ要スル理由……………一六五
- 二、市制実施ヲ必要トスル理由……………一六六
- 三、将来施設計画事項……………一六八

第二節

市制施行後の基本的事業

- ロ 宇和島市の誕生……………一七七
- 1 市域拡張事業……………一七九
- 2 上水道事業……………一八〇
- イ 町制時代からの懸案……………一八三
- ロ 上水道の調査と基本計画……………一八三
- ハ 水利補償問題……………一八七
- ニ 水道敷設工事の進捗……………一九〇
- 3 市庁舎の新築……………一九四
- 4 須賀川付替事業……………二〇〇
- イ 付替の必要……………二〇〇
- ロ 付替に伴う問題点……………二〇二
- ハ 事業計画の具体化……………二〇四
- ニ 付替事業の実施……………二一三
- ホ 関連する問題の解決……………二一五
- 5 港湾改修事業……………二一八

第三節

歴代市長と市政

- イ 港湾改修の歴史的推移……………二一八
- ロ 市制施行前後の改修……………二二四
- ハ 港湾改修の基本計画……………二二九
- ニ 港湾改修事業の推進……………二三六
- 歴代市長と市政……………二四七
- 臨時市長代理 山村 豊次郎……………二四八
- 同 桑山 吉輝……………二四九
- 初代市長 山村 豊次郎……………二五二
- 臨時市長代理 柏木 乙一郎……………二五六
- 二代市長 久野 廉……………二五八
- 臨時市長代理 松木 信孝……………二五九
- 三代市長 山村 豊次郎……………二六一
- 四代市長 高橋 作一郎……………二六五
- 市長職務管掌 武智 真一……………二六七
- 五代市長 井上 源一……………二六八
- 臨時市長代理 柏木 乙一郎……………二七二
- 六代市長 赤松 桂……………二七三
- 市長職務管掌 米岡 伊太郎……………二七四
- 七代市長 樋口 虎若……………二七五

臨時市長代理	尾下鶴正	二七七
八代市長	高島龜太郎	二七八
臨時市長代理	藤井折平	二八二
九代市長	上田宗一	二八三
臨時市長代理	宮田信隆	二九〇
十代市長	国松福祿	二九二
十一代市長	同	二九五
臨時市長代理	三瀬庫重	三〇〇
十二代市長	中平常太郎	三〇一
十三代市長	中村純一	三〇五
十四代市長	中川千代治	三二〇
十五代市長	同	三二四
十六代市長	山本友一	三二八
十七代市長	中川千代治	三二四
市長職務代理	岩城正夫	三三一
十八代市長	山本友一	三三三

第四節 市政の前進と財政難

1 市政初期	三三九
2 昭和初期	三四二

3 戦時体制下時代

第五節 戦時下行政の苦難と戦災の打撃

1 戦時下の市民生活	三四六
2 戦時下の行政と疎開	三六一
3 戦災の打撃	三六三

第六節 戦後の復興改革と行財政の試練

1 概説	三七一
2 戦後における市の行財政	三七三
3 宇和島市行財政再建の方途	三九二
4 財政再建への努力と計画の完了	三九八

第二章 市行政の推移と市勢の現状

第一節 行政

一、概説

1 位置	四一一
2 自然	四一二
3 風土	四一二
4 市域	四一三

二、市民

1 世帯、人口の推移	四一五
------------	-----

2	人口構成	四一六
3	人口動態	四一九
4	産業別人口	四二四
5	名譽市民	四二六
三、行政機関		
1	執行機関	四三二
2	行政委員会および委員	四三三
3	議決機関	四四五
四、行政機構と職員配置		
五、行政事務改善		
六、町内組織および広報		
第二節 財政		
1	財政規模の推移	四七九
イ	町制時代の財政規模	四七九
ロ	市制施行後の財政規模	四八〇
2	財政の質的推移	四八四
イ	歳入	四八四
ロ	歳出	四八七
3	特別会計および公営企業会計	五〇五
4 市債の推移と現状		
第三節 産業・経済		
一、概説		
二、農業		
1	概説	五一六
イ	農地制度の推移	五一六
ロ	農地改革	五一七
ハ	農業委員会	五一八
2	農業経営	五一八
イ	経営規模と生産	五一八
ロ	家畜・家禽	五二一
ハ	農業機械の導入	五二一
3	農業構造改善事業	五二二
4	農業経営の転換と調整	五二七
5	広域農業経済圏整備事業	五三〇
イ	南予農業経済圏事業	五三〇
ロ	広域市町村圏事業	五三〇
6	農業共済事業	五三一
7	農業団体および指導機関	五三二

8 宇和島市の農業の将来 五三四

三、林業

1 概説 五三五

2 四国西南地域の森林開発 五三六

3 黒尊スーパー林道 五三六

4 林業団体および指導機関 五三八

四、漁業

1 漁業の推移 五三八

2 漁業の現状と将来 五四〇

3 南予における真珠養殖の歴史 五四四

4 水産加工 五四七

5 漁業構造改善事業 五四七

6 漁業団体および指導機関 五四八

五、工業

1 戦前の工業 五四九

2 戦後の工業 五五五

3 工場誘致問題 五五八

六、商業

1 商業の推移 五六三

2 戦後の商業 五六四

3 商業経営の近代化 五六八

4 商工業団体および指導機関 五七二

5 金融機関 五七八

七、産業団地

七、産業団地 五七九

第四節 観光

1 観光事業の推移 五八三

2 観光新時代の到来 五八六

第五節 保健・衛生

1 予防衛生 五九〇

2 環境衛生 五九四

イ し尿処理事業 五九四

ロ ごみ収集処理事業 五九七

ハ その他の施設 五九九

ニ 家畜衛生 六〇二

ホ 公害対策 六〇二

3 国民健康保険 六〇四

イ 国民健康保険事業 六〇四

ロ 保険財政の状況 六〇五

ハ	保険給付の状況	六〇七
ニ	保険料の状況	六〇七
ホ	医療機関の状況	六〇七
4	市立宇和島病院	六〇八
イ	創立時代	六〇八
ロ	揺らん時代	六一〇
ハ	基礎安定時代	六一一
ニ	恐慌時代	六一二
ホ	経済再建時代	六一三
ヘ	戦時体制時代	六一四
ト	復興建設時代	六一五
チ	復興完成時代	六一七
リ	近代的整備拡充時代	六一九
第六節	教育・文化	六二五
一、	学校教育	六二五
1	藩制時代の教育	六二五
2	明治時代の教育	六二九
3	大正時代の教育	六四〇
4	昭和前期の教育	六四一

5	戦後の教育	六四三
イ	戦後教育の概況	六四三
(1)	終戦直後の教育	六四三
(2)	教育施設整備事業の総括	六四五
ロ	教育施設整備事業費の分析	六四九
ハ	教育施設整備事業の区分	六五二
(1)	第一期整備事業	六五二
(2)	第二・三期および近代化整備事業	六五八
(3)	第四期整備事業	六六二
ニ	学校給食	六七〇
ホ	幼児教育	六七三
二、	社会教育	六七六
1	社会教育の推移	六七六
2	青年教育	六七七
イ	青年教育の推移	六七七
ロ	青年団活動	六八〇
ハ	戦後における青年教育	六八一
3	婦人教育	六八三
4	少年少女教育	六八七

イ	ボーイ・スカウト	六八七
ロ	ガール・スカウト	六八八
ハ	スポーツ少年団	六八九
ニ	児童愛護会・子供会	六九〇
ホ	海洋少年団	六九〇
5	公民館	六九一
6	文化財	六九三
7	社会体育	六九八
8	図書館	七〇四
第七節 民生・福祉		
1	社会福祉制度の変遷	七二〇
2	福祉制度の実施と現状	七二四
イ	生活保護	七二四
ロ	児童福祉	七二一
ハ	母子福祉	七二五
ニ	身体障害者福祉	七二七
ホ	精神薄弱者福祉	七三〇
ヘ	老人福祉	七三二
ト	法外援助	七三九

3	社会福祉団体	七四〇
4	同和对策事業	七四一
第八節 港湾・土木		
1	港湾修築事業の経過	七四四
2	戦後の港湾改修事業	七四六
イ	第一期整備事業	七四六
ロ	第二期整備事業	七四七
3	宇和島港の再開発計画	七四九
4	土木事業	七五一
5	下水道事業	七五六
6	公共施設建設事業	七五八
第九節 都市計画		
― 戦災復興および土地区画整理事業 ―		
一、	罹災状況および応急対策	七六三
二、	戦災復興計画	七六五
三、	戦災復興土地区画整理事業	七六九
四、	事業の実施	七七二
第十節 上水道		
1	上水道敷設事業の推移	七八〇

- イ 創設水道.....七八〇
- ロ 改良拡張工事.....七八一
- 2 施設状況.....七八五
- 3 新たな拡張計画.....七八八
- 4 簡易水道.....七八九

第十一節 防災・治安.....七九一

- 一、防災.....七九一
- 1 消防制度の沿革.....七九一
- 2 救急業務.....七九三
- 3 危険物取締り.....七九四
- 4 火災発生状況.....七九五
- 5 消防組織と装備.....七九七

二、治安

- 1 警察制度の推移.....七九九
- 2 戦後の警察制度.....八〇〇
- 3 犯罪および事故発生の推移.....八〇二

第十二節 交通・運輸・通信

- 1 海上交通.....八〇四
- 2 陸上交通.....八〇七

- イ 鉄道.....八〇七
- ロ 道路.....八〇八

- 3 運輸.....八一
- イ 貨物自動車.....八一
- ロ 乗合バス.....八一

- 4 通信.....八一
- 5 放送.....八一

第十三節 労働.....八一

- 1 労働運動の推移.....八一
- 2 戦後の労働運動.....八一
- 3 労働行政.....八一

第十四節 宗教.....八一

第十五節 民俗.....八一

- 1 村や町の慣習.....八一
- 2 年中行事.....八一
- 3 労働慣行.....八一
- 4 日常生活.....八一
- 5 芸能・娯楽.....八一
- 6 民謡.....八一

第十六節 気象

八四三

第十七節 官公庁

八四七

第三章 議会制度の変遷と地方自治の前進

八五一

一、わが国の議会制度の発達とその推移

八五一

1 地方議会制度の起こり

八五一

2 町村制の施行と地方自治

八五二

3 市制施行後の地方自治

八五三

イ 市参事会

八五三

ロ 議会制度の改革

八五五

4 終戦後の地方自治と議会制度

八五六

二、選挙制度の変遷

八五八

1 市町村会議員選挙

八五九

2 市町村長の選挙

八六〇

三、議会活動

八六二

四、議会事務局

八七四

五、議会費

八七五

六、歴代市会（議会）議員

八七六

第四章 隣接村の合併

八八一

一、九島村の合併

八八一

1 九島村の沿革と村政

八八一

2 合併問題の経緯

八八六

3 合併の成立

八九八

二、高光、三浦村の合併

八九九

1 高光村の沿革と村政

八九九

2 三浦村の沿革と村政

九〇二

3 合併問題の経緯

九〇七

4 合併の成立と新市建設構想

九一一

三、来村の合併

九二四

1 来村の沿革と村政

九二四

2 合併問題の経緯

九二六

3 合併の成立と新市建設構想

九二八

四、隣接村合併の結果

九三六

第三編 地域開発の推進と宇和島市

序 説

九四一

第一節 四国西南地域総合開発

九四二

1 四国西南特定地域総合開発事業

九四三

2 特定地域総合開発計画推進のための諸措置

九四五

3	公共投資事業実施状況の推移と直接効果(その一)	九四五
4	公共投資事業実施状況の推移と直接効果(その二)	九四七
5	特定地域開発事業計画の問題点	九四七
第二節	南予農業経済圏整備事業	九四八
1	概説	九四八
2	広域農業近代化施設整備状況	九五〇

第三節	四国循環鉄道建設促進運動	九五五
1	建設運動のはじまり	九五六
2	宇和島鉄道の建設	九五七
3	大洲から南の鉄道路線問題	九五八
4	循環鉄道の延長と促進運動	九五九
イ	大正期の建設促進運動	九五九
ロ	昭和初中期の建設促進運動	九六一
ハ	戦後の建設促進運動	九六六

第四節	新全国総合開発計画と南予開発	九六九
一、	地方生活圏の指定	九七〇
二、	広城市町村圏事業	九七三
1	指定前後の経過	九七四
2	計画の策定および実施機関	九七五

3	宇和島地区広城市町村圏計画	九七七
4	宇和島市総合開発計画の基本的施策	九九一
5	国・県および公社・公団の直轄事業	九九五
6	広城市町村圏根幹事業費の総括と実施状況	九九七

三、	四国西南山地大規模林業圏開発事業	一〇〇一
1	圏域の未来像	一〇〇三
2	大規模林業開発の基本方向	一〇〇四

四、	南予レクリエーション都市の建設	一〇〇六
1	指定にいたるまでの経過	一〇〇六
イ	レクリエーション都市整備要綱	一〇〇六
ロ	南予レクリエーション都市基本構想	一〇一〇
2	指定後の整備計画	一〇一一
イ	南予レクリエーション都市整備計画案	一〇一一
ロ	宇和島地区施設計画	一〇二〇
ハ	整備事業推進の方途	一〇二三

五	宇和島港の開発計画	一〇二五
(一)	宇和島港整備の方向	一〇二六
(二)	宇和島港湾施設計画	一〇三四
(三)	解決すべき今後の課題	一〇四二

第五節 地域開発と将来の展望

1 総括……………一〇四四

2 将来の展望……………一〇四四

年 表……………一〇六七

市誌編さん委員……………一〇七七

あとがき……………一〇七八

正 誤 表

頁	行	正	誤	頁	行	正	誤
七六	終より	四一〇	一方×	五四四	一	〇	5 ×
八二	〇	且共有物ヲ	且×	五八〇	八	八千一百二十万円	八千一百二十万円
九三	六	同年	同×××× 二十五年	五八一	六	四六、五〇七坪	四〇六、五〇七坪
一一四	終より	六	行×	終より	三	五七、一三二〃	四一、二五六〃
一二〇	一	大抵は	大低×	〃	三	計四一、二六五〃	改正と×
一四八	柱	八幡村との合併	合議×	六〇五	〃	改正で	改正と×
一五四	終より	教育的水準	準水×	六〇七	二	みぎのとおり	つぎのとおり